

地域を活性化する新しい風



①神戸大学と連携したまちづくりが行われている西紀北小学校区。教員や学生の皆さんと一緒にワークショップに取り組みました
②平成19年4月5日に「地域連携協力に関する協定書」の調印式を行いました
③地域連携事業の一環として平成19年5月8日、神戸大学の教員や学生の皆さんが大山地区などを訪問。里山や市民農園などを視察しました



さまざまな地域課題を解決するため、平成18年3月から官学地域連携事業に取り組んできた篠山市と神戸大学大学院農学研究科・農学部。平成19年4月5日には、今後の連携協力の目的と内容を確認するため、「地域連携協力に関する協定書」に調印しました。

今回は、篠山市と神戸大学との地域連携協力の仕組みと、今後取り組んでいく連携事業についてお知らせします。

地域連携に向けた経緯

近年、篠山市では少子高齢化社会による人口の伸び悩み、若者の流出などを背景に農業生産が停滞。農地の遊休地化や山林の荒廃が進むなど、地域の抱える課題は多様化しています。このため、地域同士や活動団体との連携など大きな視野にたつてのまちづくりが必要となつています。

こうした中、篠山市が地域の課題を解決するために、大学などの教育機関とかかわりをもつことは、研究者や学生の皆さんの人的・知的資源を有効に活用できるとあつて、市政運営を進めるうえで大きな力となり

ます。一方、大学などでも研究室などにとどまらず、実践の場で活動することが求められ、社会貢献と教育研究の質の向上を目指した動きが高まってきました。

ところで、神戸大学大学院農学研究科・農学部にとつて篠山市は、前身である県立兵庫農科大学が昭和24年から昭和41年まで所在していた緑深い地域。この間にも、現場での問題を共有し、黒大豆・山の芋の生産販売など農業分野を中心としたさまざまな課題を解決してきました。そこで今回、失われつつあつた縁を新たに紡ぎなおし、将来にわたつて連携していく体制を検討することになりました。

地域連携協力協定を締結

平成18年3月から、官学地域連携事業に取り組んできた篠山市と神戸大学。同大学には、教員や学生の皆さんを地域と結び付ける「農学研究科地域連携センター」があり、同センターを通してさまざまな連携活動が開始されました。

篠山市が進めている、小学校区を一つのコミュニティ単位として、地域が課題解決に向けて主体的に取り組む「まちづくり協議会」の設立支援もその一つ。今回その一環として、西紀北小学校区をモデル校区として、教員や学生の皆さんが地域に入り、ワークショップなどを通じて、校区の特性や課題を共有しました。今後は、新たな人材を呼び込み、地域課題を掘り起こしながら、自治管理システムの再編によるコミュニティの再生を目指しています。

また、7月に篠山市、神戸大学および有識者の皆さんからなる委員会を設置。委員会では、地域連携事業の推進や調整などを行うとともに、11月には教員や学生の皆さんの情報収集や研究活動を行う拠点として「神戸大学農学部篠山フィールドステーション」(東新町)を開設しました。そして、各種連携事業の実務的な検討を行うために「地域連携計画書」の策定を進め、平成19年4月に「神戸大学大学院農学研究科と篠山市との連携に関する協定書」の調印

が行われました。

5つの連携事業に取り組む

協定書には、地域課題の解決や産業振興、まちづくりなどの分野で将来にわたつて相互に協力し、双方の活性化と人材育成に寄与することが挙げられています。その実現のために、より具体化した5つの連携プログラムに取り組むこととしています。

このプログラムでは、農業分野を中心とした地域課題を解決するため、特産の黒豆をテーマに黒豆栽培、販売、ブランド化までの総合的な連携研究(1)を実施。さらに、篠山市全体を教育研究の場として、黒豆、山の芋など特産物の栽培を実際の生産者に学ぶ現地実習(2)を行います。

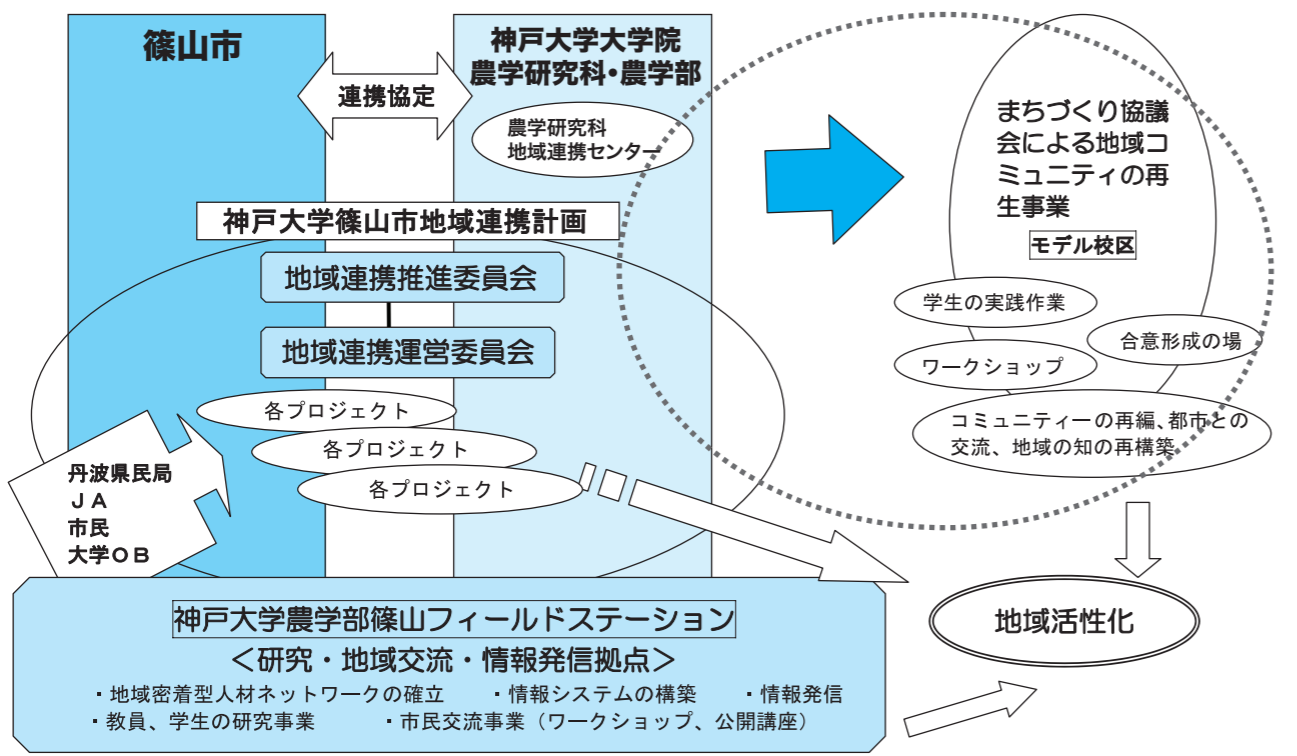
また、市民の皆さんに農学研究科の教育や研究にふれる機会を提供する講義やセミナー(3)を行うとともに、活動の成果を報告し、直接対話できる場として、フォーラムやタウンミーティング(4)を開催。このほか、篠山市に伝わる地域ナレッジ(知恵やノウハウ)を活用(5)するなど、地域を活性化するための新しい風として期待されています。

将来的には大学全体と篠山市の連携協力を目指して、両者の連携を確かなものにしていきます。

■問い合わせ

企画課 ☎552・5106

神戸大学・篠山市地域連携事業イメージ図



官学地域連携事業に かかわられていて いる方に インタビュー



連携を通じて
地域を研究の場に

神戸大学大学院農学研究科(博士課程前期2年)
横山 茉洙さん

地域連携協力協定に先立ち、昨年7月に神戸大学の学生の皆さんが桑原地域を訪問しました。学生たちは、地域の皆さんに聞き取り調査を行った後、グループに分かれて地域活性化対策について発表。今年2月には炭焼き窯での炭出し体験や、もちつきを行って交流を深めました。

同大学院農学研究科に所属の横山 茉洙さんは、この実習に参加された1人。横山さんは「地域の方と話ができるとはとても貴重な体験でした」と実習を振り返られます。



桑原地域でのワークショップの様子。学生の皆さんは、集落を散策しながら聞き取り調査を行いました

さらに、「地域連携は、学生たちが篠山市を調査研究の場として利用できる一方で、篠山市はその研究の成果を活用できるとあって、お互いにメリットをもたらしてくれる事業ですね」と期待を寄せて話されます。

ところで、来年にはコンサルタント(専門知識や経験をもとに、助言を与える専門家)としての道を歩まれる横山さん。「今後も、農業によるまちづくりに携わり、いつか篠山で恩返しできれば」と笑顔で話されました。



地域づくりコミュニティサイト「草山さんとねっと」。草山が好きな方なら誰でも住民になれます

市内では地域課題の解決、地域の特色や個性を生かしたまちづくりに向けて、地域が主体的に取り組むことを目的に「まちづくり協議会」が設立されています。ここでは、そのモデル校区として、神戸大学大学院農学研究科と連携したまちづくりを行っている西紀北小学校区の草山郷づくり協議会会長・畠中清光さんにお話をうかがいました。

「草山郷づくり協議会は、しゃくなげ会館(本郷)を拠点に昨年7月に設立しました。大学の教員や学生の皆さんのアドバイスを受けながら、5回のワークショップを重ね、これからのまちづくりに関して検討してきました」と話されます。

また、昨年度は教員や学生の皆さんと一緒にワークショップでの提案をもとに、意見交換や情報発信の場として地域を盛り上げようと、ホームページ「草山さんとねっと」(<http://sato-sasayama.jp/kusayama/>)を開



大学とともに
自治運営に取り組む

草山郷づくり協議会会長
畠中 清光さん(本郷)

設。併せて、パソコン講座も開講されました。このほか、校区の現状や地域の皆さんの思いを知ろうと、アンケート調査を実施され、高校生以上の皆さんや、草山地域出身の皆さんを対象に、1,950部発送されました。

さらに、今年度はコミュニティビジネス部会や生活福祉部会、環境・歴史部会などの5つの部会を設置。「つながり・にぎわい・うるおい」草山村の再生」を理念に新たな自治運営の取り組みが開始されます。「部会の活動を通じて地域をさらに活性化し、5年間で50人の定住人口を増やすことが最終的な目標です」と話される畠中会長。「今後も、学生の皆さんの教育研究の場として、西紀北小学校区を積極的に活用していただくとともに、ここら豊かな人づくり、住みよい郷づくりに取り組んでいきたいです」と力強く話されていました。



神戸大学農学部の前身である県立兵庫農科大学正門の様子(写真提供:神戸大学)

篠山を離れて約40年が過ぎ、市内に蓄積されてきたネットワークが徐々に失われつつあった今日、加古教授は、「人と人とのつながりがあるうちに連携協力体制を再構築できたことは、とてもうれしいです」と笑みがこぼれます。

また、今後の取り組みとしては、「現場の農業に理解を深めていくため、学生たちが実際に農村に滞在して、農家の方から生活の知恵や技術を学ぶ現地実習を行っていきます」と話される加古教授。今年度は試行的な取り組みとして黒大豆などの栽培を行い、来年度から現地実習を正式なカリキュラムとして導入されるそうです。最後に、「地域が抱える課題はますます多様化しています。将来的には、農学部だけでは解決できない課題を他の学部とも連携協力して、大学全体で考えていけるような体制を整えていきたいですね」と熱い思いを話されていました。

地域課題は多様化 大学全体での連携を



神戸大学大学院農学研究科教授(食料経済学)
加古 敏之さん(神戸市)

かつて、県立兵庫農科大学として篠山で開学された神戸大学農学部。昭和24年から神戸市に移転される昭和41年までの間、今日の特産物となっている黒大豆や山の芋などの生産研究を行われてきました。しかし、

連携の推進には 参画と協働が大切



神戸大学名誉教授
新 龍さん(小多田)

篠山市と神戸大学大学院農学研究科・農学部との地域連携活動を進めるため、昨年7月に地域連携推進会議が設置されました。この委員の1人として、事業の推進や調整、検討などを行われてきたのが、神戸大学名誉教授の新家龍さんです。「地域連携事業を通じて、新しい考えや知識を取り入れながら、地域活性化のため、の新しい風を吹き込んでほしいですね」と熱い思いと強い期待を表明されます。



前篠山市社会福祉協議会篠山支所事務所へ設置された「神戸大学農学部篠山フィールドステーション」(東新町)

と、今後の取り組みについて、地域連携事業での取り組みについて、具体的なプロジェクト案を作成されています。その中で、篠山市の産業振興策をテーマとして、①新農業政策への篠山市における対応策 ②篠山市農畜産特産物の振興策 ③遊休地対策と鳥獣害対策 ④農業を地域集団で担う「集落営農」方式の確立対策 ⑤「食育」と地産地消の推進対策などを取り上げ、大学に提案されています。